



FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Express モデル(SX)

ご使用上の留意・注意事項 / ドキュメント修正事項

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Express モデル(SX) (以降 Cloud Ready Blocks Express)に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、Cloud Ready Blocks Express のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるドキュメントをご覧になる際は、下記に示します内容を合わせてお読みくださいますようお願いいたします。

2014 年 12 月
富士通株式会社

■ ご使用上の留意・注意事項

1. ダウンロードサイトのご案内

各種ドライバや BIOS、ファームウェア、高信頼性ツールなどの修正モジュールを「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks」ページの「ダウンロード」(<http://jp.fujitsu.com/platform/server/crb/downloads/>)にて提供しております。システム安定稼動のため、常に最新の修正モジュールを適用して運用されることをおすすめします。

なお、最新モジュールのダウンロードおよび適用作業につきましては、お客様自身で実施いただきますようお願いいたします。

■ ドキュメント修正事項

「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Express モデル (SX) 利用ガイド」への修正事項について

1. 「5.1.1 バックアップの対象」の本文の修正

本文 1 行目にあるバックアップツールの名称

誤: 標準バックアップツール

正: 基本部バックアップツール

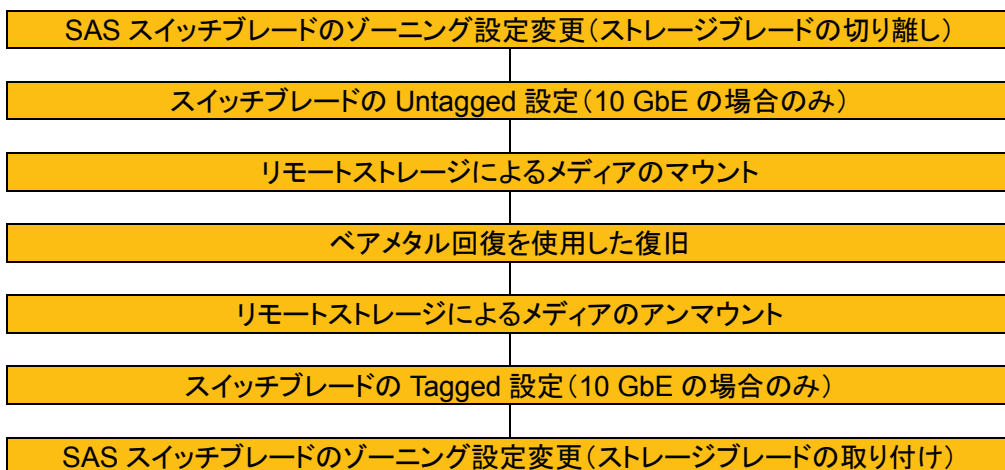
2. 「5.4.1 ホスト OS のリストア」を以下の文章に差し替えてお読みください。

5.4.1 ホスト OS のリストア

ホスト OS (ノード#1~#4) のリストア手順を説明します。

本手順は、リストアを行うノードのホスト OS 上で実施します。

以下の順番で作業を実施してください。



■ SAS スイッチブレードのゾーニング設定変更 (ストレージブレードの切り離し/取り付け)

SAS スイッチブレードのゾーニング設定変更手順を説明します。

PIONT

- 本作業は SAS メザニンカードが搭載されたノード#1、#2 がリストア対象の場合に実施してください。ノード#3、#4 がリストア対象の場合は実施不要です。
- 実施内容に応じて適宜、切り離しと取り付けを読み換えてください。

- 1.SAS スイッチブレード#1 の Web-GUI にアクセスします。
- 2.[SAS Domain Manager GUI]画面から[Domain]タブをクリックします。
- 3.[Manually Configure Zone Sets]の一覧にある[Modify Zone Set]をクリックします。
- 4.[Select a zone set]から[FISZONE]を選択します。
- 5.表示された表からリストア対象のノードに繋がるストレージブレードの欄をクリックして下図のように表示を変更します。

・ノード#1 を対象の場合

Zone Group	1	2	3	4	5	6
BX920S4-SLOT5 : 1			X	X	-	-
BX920S4-SLOT6 : 2			X	X	-	-
SX980S2-1 : 3	X	X			-	-
SX980S2-2 : 4	X	X			-	-
SX980S2-1-ALT : 5	-	-	-	-	-	-
SX980S2-2-ALT : 6	-	-	-	-	-	-

切り離し ↓ ↑ 取り付け

Zone Group	1	2	3	4	5	6
BX920S4-SLOT5 : 1					-	-
BX920S4-SLOT6 : 2			X	X	-	-
SX980S2-1 : 3		X			-	-
SX980S2-2 : 4		X			-	-
SX980S2-1-ALT : 5	-	-	-	-	-	-
SX980S2-2-ALT : 6	-	-	-	-	-	-

・ノード#2 を対象の場合

Zone Group	1	2	3	4	5	6
BX920S4-SLOT5 : 1			X	X	-	-
BX920S4-SLOT6 : 2			X	X	-	-
SX980S2-1 : 3	X	X			-	-
SX980S2-2 : 4	X	X			-	-
SX980S2-1-ALT : 5	-	-	-	-	-	-
SX980S2-2-ALT : 6	-	-	-	-	-	-

切り離し ↓ ↑ 取り付け

Zone Group	1	2	3	4	5	6
BX920S4-SLOT5 : 1			X	X	-	-
BX920S4-SLOT6 : 2					-	-
SX980S2-1 : 3	X				-	-
SX980S2-2 : 4	X				-	-
SX980S2-1-ALT : 5	-	-	-	-	-	-
SX980S2-2-ALT : 6	-	-	-	-	-	-

- 6.[Apply]をクリックします。
- 7.[Close]をクリックして[Modify Zone Set]画面を閉じます。
- 8.[Manually Configure Zone Sets]の一覧にある[Active Zone Set]をクリックします。
- 9.[Select a zone set]から[Active a zone set]にチェックを入れて[FISZONE]を選択します。
- 10.[Apply]をクリックします。
- 11.[Close]をクリックして[Active Zone Set]画面を閉じます。
- 12.[SAS Domain Manager GUI]画面から[Summary]タブをクリックします。
- 13.[Domain Specific Information]の一覧にある[Active Zone Set]の[FISZONE*]をクリックし、設定が反映されていることを確認します。
- 14.[Close]をクリックして[Active Zone Set]画面を閉じます。
- 15.メニューバーの[File]から[Exit]を選択して Web-GUI を終了します。
- 16.SAS スイッチブレード#2 に対しても手順 1-15 を実施します。

POINT

-SAS スイッチブレードのゾーニング設定を変更すると、ブートの順番が変更される場合があります。ストレージブレードの取り付け作業後、BIOS を起動させてローカルディスクが一番目にあることを確認し、なければ一番目に変更してください。

■ **スイッチブレードの Untagged / Tagged 設定 (10 GbE の場合のみ)**
スイッチブレードの Untagged / Tagged 設定手順を説明します。

POINT

- スイッチブレードが 10 GbE の場合のみ設定を行ってください。
- 実施内容に応じて適宜、Untagged と Tagged を読み換えてください。

- 1.スイッチブレード#1 の Web-UI を開きます。
- 2.スイッチブレード#1 の IP アドレスを https 接続でブラウザから開きます。
- 3.Web-UI にログインします。
- 4.左側の[Switching]メニューから[VLAN]を選択します。
- 5.[VLAN ID and NAME]ボックスから[10 - Management LAN]を選択します。
- 6.リストア対象のスロットと同じ番号のポートを
[Tagged] / [Untagged]から[Untagged] / [Tagged]へと変更します。
例: Slot5 のノードをリストアする場合は、ポート 0/5 を
[Untagged] / [Tagged] へ変更します。
7. [Apply]をクリックします。
- 8.該当のポートが[Untagged] / [Tagged]へ変更されたことを確認します。
- 9.Web-UI からログアウトします。

■ **リモートストレージによるメディアのマウント/アンマウント**
リモートストレージ機能によるメディアのマウント/アンマウント手順を説明します。

POINT

- 実施内容に応じて適宜、マウントとアンマウントを読み換えてください。
- アンマウントの場合は手順 4 から実施してください。

- 1.管理端末に Windows Server 2012 R2 Datacenter のインストールメディア DVD-ROM をセットします。
- 2.管理端末から管理者権限でブラウザを起動し、対象ホスト OS が動作するサーバの iRMC に設定された IP アドレスを開きます。
例: http://iRMC の IP アドレス

POINT

- ブラウザを管理者権限で起動しないと、メディアのマウントができない場合があります。

- 3.iRMC の画面が起動したら、画面左側のツリーで
[ビデオリダイレクション(JWS)]をクリックします。ビデオリダイレクション画面が
起動します。
- 4.ビデオリダイレクション画面のメニューで
[メディア]-[バーチャルメディアウィザード...]を選択します。
- 5.[バーチャルメディア]画面で DVD-ROM をセットしたドライブにチェックをつけ、
[CD/DVD に接続](アンマウントの場合は[切断])をクリックします。
- 6.表示されたメッセージを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

7.[クローズ]をクリックして[バーチャルメディア]画面を閉じます。

■ ベアメタル回復を使用した復旧

iRMC のリモートストレージ機能により、Windows Server 2012 R2 Datacenter のインストールメディア DVD-ROM を使用したベアメタル回復手順を説明します。本手順は、リストア対象のノードの電源が切断されている状態からの作業を想定しています。ノードの電源が入っている場合は、電源を切断してから操作を行ってください。

- 1.「**■ リモートストレージによるメディアのマウント**」によりビデオリダイレクション画面を起動し、インストールメディアをマウントします。
- 2.ビデオリダイレクション画面のメニューで[電源]-[電源投入]を選択します。
- 3.起動直後にビデオリダイレクション画面のコンソール画面に
[Press <F2> to enter Setup or <F12> to enter Boot Menu.]と表示されます。
[F12]キーを押します。
- 4.BIOS 画面の Boot メニューの画面で管理端末の DVD ドライブを選択し、
[Enter]キーを押します。
- 5.[Press any key boot from CD or DVD..]が表示されていることを確認し、
[Enter]キーを押します。
- 6.[Windows Boot Manager]と表示された場合は、
[Japanese Windows Setup [EMS Enabled]]を選択し、
[Enter]キーを押します。
- 7.Windows セットアップ画面が表示されたことを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
- 8.画面左下に表示される[コンピューターを修復する]をクリックします。
- 9.[オプションの選択]画面で[トラブルシューティング]をクリックします。
- 10.[詳細オプション]画面で[コマンドプロンプト]をクリックします。
- 11.コマンドプロンプトの画面が起動したら、以下のコマンドを入力します。
ネットワークサービスが起動します。

```
X:¥Sources> Startnet.cmd
```

- 12.マネジメントブレードの Web-UI を参照し、Management LAN で使用しているネットワークインターフェースに対応する、[アクティブ製造元 MAC アドレス]を確認します。

- 確認方法

[WebUI]-[詳細]タブ-[サーバブレード#N]-[ネットワークインベントリ]
モジュール名: Onboard LAN
ポート ID: 1

- 13.以下のコマンドを入力し、手順 12 で特定した MAC アドレスと一致するインターフェース名を書き留めます。

```
X:¥Sources> ipconfig /all
```

例: 以下の赤字部分がインターフェース名と MAC アドレスになります。
イーサネット アダプター イーサネット:

メディアの状態.....:
接続固有の DNS サフィックス.....:
説明.....: Juniper Network Connect Virtual Adapter
物理アドレス.....: XX-XX-XX-XX-XX-XX
DHCP 有効.....: はい
自動構成有効.....: はい

14. 以下のコマンドを入力し、IP アドレスを割り当てます。

```
X:¥Sources> netsh interface ip set address "<INTERFACE NAME>" static <IP ADDRESS> <NETMASK> <GATEWAY>
```

項目	設定値
INTERFACE NAME	手順 13 で確認したインターフェース名
IP ADDRESS(*)	ホスト OS(ノード[1-4])の IP アドレス 例: 192.168.100.11
NETMASK(*)	サブネットマスク 例: 255.255.255.0
GATEWAY(*)	デフォルトゲートウェイ 例: 192.168.100.1

*:「環境設定書」を参照して入力します。

15. 以下のコマンドを入力し、IP アドレスが手順 13 で確認したインターフェースに割り当てられたことを確認します。確認後、コマンドプロンプトを終了します。

```
X:¥Sources> ipconfig /all  
X:¥Sources> exit
```

16. [オプション選択]画面で[トラブルシューティング]をクリックします。
17. [詳細オプション]画面で[イメージでシステムを回復]をクリックします。
18. [イメージでシステムを回復]画面で[Windows Server 2012 R2]をクリックします。
19. [コンピューターイメージの再適用]ダイアログボックスが表示されます。
20. [キャンセル]ボタンをクリックします。
21. [システムイメージバックアップの選択]ダイアログボックスが表示されるので [次へ]ボタンをクリックします。
22. コンピューターのバックアップを復元する場所を選択するため、 [詳細設定]ボタンをクリックします。
23. [ネットワーク上のシステムイメージを検索する]をクリックします。
24. 「ネットワークに接続しますか?」と確認するダイアログボックスが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。
25. ネットワークフォルダを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

項目	設定値
ホスト OS(ノード#1)を回復する場合	(参照)¥¥[ホスト OS(ノード#2)]-[ホスト名]¥Backup¥Generation[1-2]¥HOST1 例:¥¥cpra1s2¥Backup¥Generation1¥HOST1
ホスト OS(ノード#2、#3、#4)を回復する場合	(参照)¥¥[ホスト OS(ノード#1)]-[ホスト名]¥Backup¥Generation[1-2]¥HOST[2-4] 例:¥¥cpra1s1¥Backup¥Generation1¥HOST2

POINT

-ディレクトリ「Generation[1-2]」では、回復したいデータが格納されているディレクトリを選択します。どちらが最新データなのかは、エクスプローラなどでバックアップデータのタイムスタンプを確認して判断してください。

- 26.[Windows セキュリティ]画面でネットワークパスワードの入力を求められたら、ユーザー名(ドメイン名¥アカウント名)、パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
- 27.復元するコンピューターを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
コンピューター:(参照)[ホスト OS(ノード#n)]-[ホスト名]
- 28.復元するシステムイメージの日時を確認し、該当するイメージを選択後、[次へ]ボタンをクリックします。
- 29.[ディスクをフォーマットしてパーティションに再分割する]をオンにし、[次へ]ボタンをクリックします。
- 30.復元される情報が表示されたら、内容が正しいことを確認し、[完了]ボタンをクリックします。
- 31.フォーマットしてもいいかを確認するメッセージが表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
[コンピューターイメージの再適用]ダイアログボックスが表示され、コンピューターイメージの再適用が開始します。処理の進捗は、[コンピューターイメージの再適用]画面に表示されます。
- 32.[コンピューターイメージの再適用]画面に[今すぐコンピューターを再起動しますか]と表示されたら、[今すぐ再起動する]ボタンをクリックします。コンピューターが再起動します。

3. 「A2.3 PRIMERGY BX920 S4 に関する留意事項」を以下に読み替えてください。

PRIMERGY BX920 S4 に関する留意事項については、『PRIMERGY BX920 S4 / BX924 S4 サーバブレード ご使用上の留意・注意事項』を参照してください。

該当するドキュメントは、以下の URL からダウンロードしてください。

(PRIMERGY BX920 S4 は BIOS:1.7.0 以降、iRMC ファームウェア:7.38F 以降、オンボード CNA: 4.6.313.21 以降で出荷されます。)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-bx924s4-201309.html>

4. 「付録 A システム運用上の留意点」に以下の章を追加いたします。

A.3.13 ソフトウェアを再インストールする場合の注意事項

出荷時にインストールされている以下のソフトウェアについて、再インストールが必要な場合は、本製品に添付されている「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Express モデル(ブレードサーバタイプ) Documents and Tools DVD」からインストールを実施してください。本製品に添付される ServerView Suite に含まれるバージョンとは異なる場合があります。

対象ソフトウェア	バージョン
Java 7 update 55	7u55
ServerView Operations Manager	6.31.05
ServerView RAID Manager	5.8.14
ServerView Infrastructure Manager	1.2.0.a ※1

※1 ServerView Infrastructure Manager(以降 ISM)を再インストールする際は、ISM V1.2.0 のインストール後、「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Express モデル(ブレードサーバタイプ) Documents and Tools DVD」に含まれる修正モジュールも適用してください。

以上